

くろしおボランティアフェスティバル

12月8日(日)、土佐西南大規模公園体育館周辺で「くろしおボランティアフェスティバル」が開催され、約180人が訪れました。

同イベントは、「町内で活躍する団体やサークルの活動に興味・関心を持ってもらい、ボランティアなどに参加するきっかけになっ てほしい」と町社会福祉協議会・ボランティアセンターが「見る・知る・つながる・やってみる」というテーマで主催しました。

会場には、各団体の活動紹介のパネル展示やワークショップ、ユニバーサルスポーツを体験できるコーナーなどが用意されました。また、大方高校による防災に関する発表や同日開催の「海辺の日曜日」の会場で絵本の読み聞かせが行われました。



スポーツを体験する子どもたち

錦野地区から訪れた女性は、「いろいろな体験ができ、ボランティアについて知る良いきっかけになった」と話しました。

上川口マルシェ

11月30日(土)、上川口小学校で「上川口マルシェ」が開催され、多くの人で賑わいました。

同マルシェは、同小学校の6年生が「上川口を元気で賑やかに盛り上げ、地域の人と笑顔で交流したい」という思いから企画し、出店者の募集やチラシの作成など準備を行いました。

当日は町内外の企業や個人など45店が集まり、同小学校の1年生から5年生も参加し、自分たちが作った野菜や作品を販売しマルシェを盛り上げました。また、6年生はランチプレートを提供するカフェを出店し、多くの人が列をなしていました。

6年生の塩田愛美さんは、「大変なこともあったけど、自分たちが時間をかけて準備したマルシェにたくさんの方が来てくれて、大



笑顔で野菜を売り込む児童ら

きなイベントになった。良かった。これからも続いたら嬉しい」と話しました。

中国の大学生が黒潮町で研修

「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として11月26日(火)、中国の大学生が町で防災プログラムや天日塩作りを体験しました。

同事業は、中国の大学生が日本で植樹活動や環境保護・防災活動に関して学び、意識の啓発を図るとともに、日本の大学生や住民との交流を通し、友好都市間や日本の青年の友好促進を目的に公益財団法人日中友好会館などが実施しています。

来町したのは、高知県と友好関係にある安徽省の学生ら50名で、町の防災の取組の説明を受けた後、天日塩作りと防災フィールドワークの2班に分かれ体験しました。

安徽医科大学3年生の王俊さんは、「自分の命は自分で守るという考え方に賛成したい。私たちの地区は揚子江



天日塩作りを体験する学生ら

に近く洪水などの被害があるので、防災意識を高める必要があると思う」と話しました。

大高生、インドネシア留学生と防災交流

大方高等学校がインドネシアの大学生と交流を行う「防災イングリッシュツアー」が12月8日(日)、町内で行われ、町の防災に関する取組の紹介や視察などにより交流が図られました。

本プログラムは高知大学と大方高等学校が連携し実施されたもので、同大学へインドネシアから留学中の学生4名と教員らが町を訪れ、高校生とともに町の防災活動について学びました。

一行は2グループに分かれ、安政津波の碑や世界津波の日サミットの記念碑、町地区の津波避難タワーなどを見学し、京都大学が考案した避難訓練用のスマートフォンアプリ「逃げトレ」を使用し現場本庁舎までの避難を体験しました。その後、役場担当職員や高校生から防災に関する町の取組につ



説明をする大方高校生(中央)

いて紹介があり、留学生からは「犠牲者ゼロに向けて取り組んでいる様子がよくわかりました」と感想がありました。